

⑤ 弁論大会から生活体験発表大会へ

1 弁論大会 = 定時制の生徒たちが、彼等の生きざまや体験を語る大切な学校行事

[あゆみ]

— 輝く栄冠 —

昭和 26 年	第 1 回校内弁論大会 実施 (7 月 19 日)
昭和 28 年	自治会文化部に弁論部結成 第 1 回全国定時制弁論大会 (滋賀県瀬田市) で準優勝 演題「私は女子勤労学徒」 小林文子さん [第 4 期生]
昭和 31 年	全国定時制弁論大会で優勝 演題「夢と苦悩」 西村尚子さん [第 6 期生]
昭和 34 年	日本大学弁論部主催の大会で第 3 位入賞 演題「定時制生徒に道を」 岡本尚久さん [第 10 期生]
昭和 35 年	日本大学弁論部主催の大会で優勝 演題「これからの母」 芝岡一美さん [第 11 期生]
昭和 43 年	第 17 回大会を最後に中止。



第 1 回全国定時制弁論大会で準優勝の栄冠を勝ち得た小林文子さん (校友会誌『葦』第 7 号より)

※ 校内弁論大会は、生活体験発表大会に吸収された。

2 生活体験発表大会

(1) 開催趣旨

「働きながら学ぶ困難な生活をどのように体験し、どのように人生や社会を見つめているか、いつわらぬ真実の声を聞く」

※ 労働省・文部省・財界・読売新聞社などの後援で実現し、NHK「青年の主張」の引き金ともなった。

(2) はじまり

昭和 29 年	第 1 回全国生活体験発表大会 開催 (3 月)
昭和 38 年	第 1 回愛媛県定通制生徒生活体験発表大会 開催 (12 月 1 日、松山市庁ホール) ※ 全国大会地区予選を兼ねる ※ 昭和 42 年までは本校など松山市内の学校で開催

昭和 43 年以後は東・南・中予の順に会場を移して毎年開催されている。

これにともない、中予地区など 3 地区で各学校の代表発表者が集まって県大会出場権をかけた地区発表大会が持たれるようになった。

(3) 本校生徒、出場の記録

昭和 36 年	本県代表者が第 11 回全国大会に初参加
昭和 40 年	第 13 回全国大会に本校生として初めて出場 演題「学校生活を大切に」 前田長次郎さん [第 15 期生]
昭和 44 年	第 17 回全国大会で NHK 賞を受賞 演題「看護の道には通らぬ言葉」 谷口 照子さん [第 19 期生]
昭和 47 年	第 20 回全国大会 出場 演題「無言の教え」 向井美紀恵さん [第 22 期生]
昭和 55 年	第 28 回全国大会で労働大臣賞を受賞 演題「育成園の園生とともに」 茶野百合子さん [第 31 期生]
昭和 57 年	第 30 回全国大会 出場 演題「竹のごとく」 田内 初枝さん [第 34 期生]



生活体験発表会の様子 [昭和 42 年] (『公孫樹』第 24 号より)



労働大臣賞を受賞した茶野百合子さんと引率の町田教諭 [昭和 55 年]